

責任者	聖和短期大学学長	作成部局	聖和短期大学
-----	----------	------	--------

2022年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む。

(狙い内容)

子ども・子育て支援新制度への対応と学習効果のさらなる向上をめざして、新たなカリキュラムを編成する。また新カリキュラムにおける授業を有効に実施するため、教員の教授内容への周知・徹底を図る。

1. 7年後(2022年度)の目指す姿(目標)

子ども・子育て支援新制度に対応したカリキュラムを編成して保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

2015年度より子ども・子育て支援新制度が本格的にスタートし、従来の幼稚園、保育所の制度から、新しく幼保連携型の認定こども園を含めた3つの体系となった。これに伴い、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園に関する教授内容が変更となる。また保育教諭の名称が使われ、養成課程が変更となる可能性がある。これらに対応するため、情報収集やカリキュラムの再編成が必要である。

3. 達成度評価

評価指標	新制度の周知・徹底。新カリキュラムの編成および授業内容の周知	評価尺度	A: 検討中 B: C: D:
------	--------------------------------	------	--------------------------

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
免許・資格に関する情報収集、検討	新制度の周知・徹底(専任教員対象)	新制度の周知・徹底(非常勤講師対象)	現行カリキュラムの見直し、授業内容についての理解	新カリキュラム案の作成、検討。授業内容についての理解	新カリキュラム決定、シラバス作成	新カリキュラムスタート	総括

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

保育に関する研究成果を発信するとともに社会に還元し、保育界、地域社会との連携を強化する。

(狙い内容)

保育に関する研究成果を広く社会に発信、還元し、社会のニーズに応えることをねらいとして、研究活動の充実を図る。また保育界、地域社会との連携強化をねらいとし、実習協議会、リカレント教育、職業実践力育成プログラム(BP)、就職協議会等の実施、キリスト教教育・保育研究センター(RCCEC)による公開講座、関西学院子どもセンターにおける活動、学生ボランティア活動、教職員による社会的活動等の充実に努める。

1. 7年後(2022年度)の目指す姿(目標)

保育に関する研究成果を広く社会に発信、還元し、社会のニーズに応えるために研究活動の充実を図る。また、新たに導入された子ども・子育て支援新制度への対応と実施に当たっている保育界、地域社会との連携体制をより強固なものとする。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

新たに導入された子ども・子育て支援新制度への対応に努めている保育界、地域社会に対し、教育、研究活動成果を広く、社会に発信、還元しつつ、今後も連携体制を強化していくことが社会的役割として求められている。

3. 達成度評価

評価指標	・研究成果の公開発表・発信件数、公的研究資金の獲得状況 ・保育界、地域社会との連携強化を図る各種取組みの実施実績	評価尺度	A: 50%の増加 B: 25%の増加 C: 現状のまま D: 減少
------	---	------	---

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
達成目標等の周知徹底	1~5%の増加	6~9%の増加	10~19%の増加	20~29%の増加	30~39%の増加	40~49%の増加	50%の増加

